

山元町に生産拠点を置き、イチゴ栽培に取り組んでいる(株)一苺一笑は、ICTを活用し、ハウス内の温度と湿度を制御するシステムを導入。生産効率と品質の向上を実現させている。また、作業の見える化や生産工程管理ソフトの導入により、労働時間の削減に繋がっている。規模拡大も進めており、同県仙台市内に農場を開設し、沖縄県内にも栽培用地を確保するなど周年栽培を目指す。

代表取締役の佐藤拓実さんがICT活用を進めた理由は、従業員の休日を確保し、ワークライフバランスを実現できる職場づくりのためだ。

同社では働きやすい労働環境づくりにも取り組んでおり、その一環として、女性従業員の働きやすさに配慮している。仙台農場では高設栽培ベンチを女性の背丈に合わせて設計したほか、衛生面に配慮した男女別トイレを整備した。今年度は女性社員を新卒採用した。

佐藤さんは「仲間とともに一粒の苺から一つの笑顔を届けていきたい」と意気込んでいる。

仙台農場のハウス内



一苺一笑の贈答用いちご



【記事提供】山元町農業委員会